



市立池田病院だより

基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第52号

2024年7月発行

放射線科：血管造影装置の更新のお知らせ

当院にIVR-CT（CTと血管造影装置を連動した装置）が導入され、2024年3月より稼働しています。

当院では年間約200例のIVR（interventional radiology：画像下治療）が行われています。

IVRとは、体内を可視化する方法で、放射線を使って治療（介入）ないしは診断を行うことを言います。

具体的には、X線透視やCT、超音波などの画像で体の中を見ながら、カテーテルや針を使用して行う治療や、診断を行う治療分野です。



CANONプレゼンテーション資料より引用

具体的な画像下治療の例

肝動脈化学塞栓療法（TACE）

カテーテルを肝動脈に挿入し、造影剤を使用して動脈を撮影。腫瘍の位置を確認した後、カテーテルを腫瘍に分布する血管に進め、そこから抗がん剤と塞栓物質を注入します。腫瘍に栄養が届かないよう血管を塞いだうえで、抗がん剤により癌細胞を死滅させる治療法です。

昨年度（4月から11月末まで）は肝細胞癌に対して肝動脈化学塞栓療法 TACE 72例を施行しました。

穿刺生検

穿刺生検は腫瘍や異常な組織を体外から採取し、病理診断するために行います。

右の写真はうつ伏せになった人のCT写真です。CTを撮りながら背中側（写真上側）から胸椎の右側部分の腫瘍の中に針を挿入し、組織を採取します。



IVRの利点

IVRは低侵襲治療と呼ばれており、多くの手技が局所麻酔下でカテーテル等を挿入するため、外科手術に比べて体に与える影響が少なく済みます。また、合併症のリスクを低減するほか、入院日数を短縮できるなど、患者さまに多くの利益を提供します。

IVR治療は消化器外科や消化器内科など関連科からの紹介となります。当院の受診には紹介状が必要ですので、まずはかかりつけ医にご相談ください。

関連動画：IVRって～低侵襲の画像下診断治療～ 放射線科主任部長 高村学 動画はこちらのQRコードから→



患者さまの権利

- ・個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・十分な説明を受ける権利があります。
- ・診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

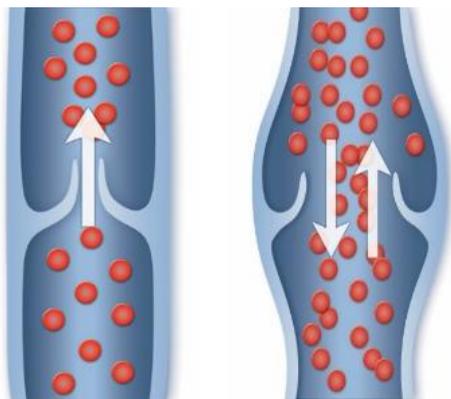
形成外科：下肢静脈瘤について

当院では、下肢静脈瘤に対する治療を積極的に施行しています。

現在は、2019年12月から保険収載となった血管内接着剤治療（血管内塞栓術）がメインとなっており、患者さまの病態に応じて従来からの治療法に比べ、より低侵襲の手術方法を選択して施行しております。

現在は血管内塞栓術の適応がある患者さまには局所麻酔下での日帰り手術にも対応させていただいております。ただし、食物・薬剤アレルギーをお持ちの方など血管内塞栓術の適応外の方や、血管の走行によってカテーテル治療が困難な方などは従来通り入院で全身麻酔あるいは腰椎麻酔下の治療となる場合があります。

静脈と下肢静脈瘤について



静脈弁は血液の逆流を防いでいますが、この弁が壊れると、血液が逆流してその下にある静脈に血液がたまってしまいます。

血液がたまった状態が毎日毎日、何年も続くと徐々に静脈の壁がひき延ばされて太くなります。さらに太くなると静脈はヘビのようにグネグネと曲がりくねった状態になります。この静脈が曲がりくねった状態が「下肢静脈瘤」です。

下肢静脈瘤は見た目の問題だけではなく、汚れた血液が足にたまったり、静脈の中の圧力が高くなることによる炎症によってさまざまな症状がおこります。

下肢静脈瘤の症状

下肢静脈瘤は40歳以上の女性に多く認められ、年齢とともに増加します。命にかかわる病気ではありませんが、放置しておいて自然に改善することはなく、時間の経過とともに徐々に悪化していきます。

下肢静脈瘤の症状経過を下記に記します。「足がむくむ、だるい」が発症のサインになることが多く、疼痛の訴えはないことが多いです。



重症化すると湿疹や脂肪皮膚硬化症などの「うっ滞性皮膚炎」を合併し、さらに悪化すると「色素沈着」「潰瘍」になってしまいます。

基本的に患者さまの訴えの強さと日常生活への支障の来す程度で患者さまと相談の上、手術の可否を決定いたします。

下肢静脈瘤の症状

- 足の血管が浮き出て見える
- ふくらはぎがだるい・重苦感
- 足のむくみ
- 足のこむら返り（つり）
- 足がほてる・熱く感じる
- 足のむずむず感・不快感
- 足のかゆみ・湿疹
- 足の色素沈着
- 足の潰瘍

徐々に悪化



血管を接着材でふさぐ「血管内塞栓術」

2019年12月から保険収載となった、下肢静脈瘤の最新治療です。

従来の血管内焼灼術は、熱を発するので火傷防止に麻酔液を血管外に注入しますが、血管内塞栓術は熱を発しないので、その手技も不要となりました。また、熱による神経の損傷のリスクもないため、より低侵襲な治療法といえます。

血管内塞栓術は局所麻酔での日帰り手術も対応しております。



診察から診断までの流れ

問診
視診



自覚症状のほかに仕事の内容や生活習慣などをお聞きして、下肢静脈瘤によるものか、他の病気によるものかなどを見極めます。

また、患部をみて下肢静脈瘤の場所や膨らみ具合、むくみや皮膚の変色がないかなどの状態を確認します。

アレルギー歴や接着剤使用歴など、血管内塞栓術のリスク因子の有無も確認します。

エコー検査
C T検査



足の静脈の状態を確認し、逆流があるかを検査、診断します。

また、深部静脈血栓など下肢静脈瘤の手術が受けられない状態でないかどうかも確認します。

手術適応がある場合には、C T検査を追加して静脈の走行を確認します。血管に蛇行がない場合はカテーテル治療の適応となりますが、蛇行が強い場合には他の方法を選択することになります。

診断
手術決定



症状と検査結果を総合的に判断し、手術方法を決定します。

手術方法によって麻酔方法や入院の要否もかわってきます。

下肢静脈瘤の症状に合致する方、下肢静脈瘤を指摘され症状を認めているが手術を悩んでいる方、下肢静脈瘤なのかどうか気になっておられる方などおられましたら、かかりつけ医などにご相談のうえ、紹介状をご持参ください。



緩和ケア認定看護師の活動について

意思決定支援：がん患者さんの病期とその支援



緩和ケア認定看護師
小林身和子

緩和ケア認定看護師の小林身和子です。現在勤務している病棟は血液内科・小児科・脳神経内科があり、特に血液内科では、治療期から終末期まで入退院を繰り返し長期にわたり治療を受ける患者さまが多く、また輸血依存の状態では療養の場の選択肢は限られていました。しかし、少しずつ輸血対応可能なクリニックが増え、患者さまにとっては住み慣れた地域に戻れたケースも経験しました。今後も患者さまの意思決定を支援し、QOLの改善ができるよう多職種と協働し関わっていきます。

今月の一品

スルメイカの醤油マヨソテー



新鮮なイカの胴体は表面につやがあり、しっかりとした弾力と丸みがあります。

鮮度が落ちてくると、内臓がつぶれて平らな形になります。

イカは種類により旬の時期が異なります。

スルメイカの旬は5～9月頃ですが、1年を通して比較的手に入りやすいです。



材料(2人分)

スルメイカ (150g)	1杯
玉ねぎ	1/2個
サラダ油	少々
☆醤油	大さじ1
☆マヨネーズ	大さじ1
☆にんにく	少々
青ネギ	少々

作り方

- ① 下処理したイカを食べやすい大きさに切る。
- ② 玉ねぎを薄くスライスする。
- ③ 熱したフライパンにサラダ油をひき、玉ねぎを炒め、しんなりしたらイカを加える。
- ④ ☆を加えて炒め、お好みで青ネギを散らす。

栄養管理科

お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見・ご感想等をお寄せください。

〒563-8510

大阪府池田市城南3丁目1番18号

TEL 072-751-2881 (代表)

FAX 072-754-6374

URL <https://www.hosp.ikeda.osaka.jp>

編集・発行：市立池田病院 広報委員会



アカウント：
ikeda_city_hospital

バックナンバー

